



基調講演

世界平和研究所会長 中曽根康弘

十五周年記念シンポジウムにあたり

今日はようこそ皆様おいでいただきました。世界平和研究所の十五周年記念の大きな仕事として、このようなシンポジウムを企画した次第でございますが、さいわいにドクター・マハティール、ウィリアム・ペリーさんをはじめ、世界各地からの最も有名な世論リーダー、研究リーダーをお迎えすることができまして、現在の問題について議論していただくことができましたことは大変な幸せでございますし、感謝申し上げるところでございます。



私はこの際、このリーダーの皆様方が議論なさるにあたりまして、私たちがいま抱えている、大きな研究課題というものを、問題提起をまず申し上げて開会の辞に替えたいと思うのであります。



世界の情勢を見ますと冷たい戦争が終わったというのが、戦後の大きな変化を地球上に起こしましたが、今までアメリカ系、ソ連系というものに属していたものがみんな分離して、そして世界が散乱的状态になりました。その間にまた各国は己のアイデンティティーを探して、自分の基礎を固めてきていると思いましたが、その次に一番大きな問題は、ニューヨークのあのテロの大惨害と今度のイラク戦争だろうと思います。このイラク戦争の影響というものは意外に歴史的に観察しますと、大きな因子を次の時代に残してきていると、そう思うのであります。

一つは、いわゆる一強多元社会というものが出来ているのかどうか。アメリカだけが超スーパーパワーで後は多元的な社会。そういう中で国連というものがどうなっていくかということが、一つの大きな課題であります。世界の人々は国連中心に平和の安定を望んでいると思いますが、社会の内容や動きがそれを許してくれるかどうかという課題があるわけでありまして、言いかえれば、今までの平等的な均衡状態が力によって打破できるのかどうかという課題だと思っております。それと同時に起きた問題が、やはり、あの凶悪なテロ等に対して先制攻撃が許されるという議論が出て参りました。しかし、この先制攻撃を許すか許さないかということは、まだ非常に大きな議論の過程、課題でありまして、その要件はどうであるか、その内容はどうか、というような問題がこれから嚴重に研究されなければならない段階に来ていると思うのであります。

第二は、今度のイラク戦争によって湾岸の地区が大きく変化している可能性があるということでありまして、もしアメリカが、イラクのあの空軍基地に相当な基地をそのまま維持して盤踞するような状態になるといって、あの辺の勢力関係が



非常に変化する可能性がないとはいえない。今度の戦争の結果、一つ大きく出てきたのは、いわゆるロードマップを早く促進して完成しようという動きであります。これはいい動きであります。

しかし、これもなかなか難しい問題ではありませんけれども、しかし長い間の歴史上の懸案であったイスラエルとパレスチナの国家が共存できる、そういうことを二年以内に完成しようというのがロードマップであります。アメリカは勇断を振るってそこに乗り出して来たというのは、やはりイラク戦争のあと、イラクの占領政策それ以後を成功させたいという悲願が背景にあるとも考えられるものであります。



それから三番目は石油情勢がどう変わるか、イラクにおける石油支配というものがアメリカの力に移っていった場合に、OPECがどういう状況になるか。我々は、恐らく石油の値はそう上げられないから、日本にとってはいいという感じもしていますが、しかしそれがどういう変化を及ぼすか。

四番目は、戦争の変化でありまして、今度のイラク戦争によって、サダムフセインは前の湾岸のような感覚でおったかも知れませんが、アメリカの方は衛星と精密誘導兵器とコンピュータと、そういう最新、超弩級の先端兵器を開発して、それで戦争の形は変わってきた。恐らく、先進国の中にはそういう方向に国防体系を変えなければならないという動きが起こってくると思いますし、それがまた次第に戦争体系というものを変化させていく。今度のイラク戦争の問題の場合には人民を殺傷するなど、そういう大きな課題がアメリカに課せられておったわけです。軍人をやるのは仕方がないけれども、一般の市民を傷つけるなどというのが課題であったと思うのです。次の時代になると、そういうような思想が戦争体系の中に大きく支配してくると、そういう可能性もなきにしもあらずであります。



最後は、北朝鮮問題にどう影響してくるかという問題であります。私は日本人として北朝鮮問題を非常に心配しておりますから、イラクでアメリカが挫折すると、アメリカのそういうような考え方や力が弱まることは日本としては歓迎しない、そういう立場にもありました。が、しかし、これから北朝鮮問題を処理するに当たって、こっちの方は国際協力によって、そして国際的包囲網の中で平和裡にこれを解決しようという方向に動いて

おりますけれども、究極の段階でどういうことになるかということはまだ未定であります。そういうまだ過程であります。北朝鮮の処理の問題として我々の眼前に出されたわけでありまして、基調講演の皆様やあるいはパネルのディスカッションをなさる皆様方が、もしこういう問題についても考えを示していただければ、非常にこの十五周年記念講演は有意義であったと思うのであります。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。